

Salon

Vol.140 2022年9月 秋号



ホール4F壁画 ポール・ゴッアマン作「レッスン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 高野百合絵&黒田祐貴
- 03 Phoenix Presents — パガニーニ ヨーロッパを熱狂させた悪魔のヴァイオリニスト
Trio Quffo リサイタル
法貴彩子 ピアノ・ジャンクションVol.3
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — 仙台クラシックフェスティバルでライブの響きを感じよう 富田小緒里

オペラ界の次世代スター、ザ・フェニックスホールに登場 高野百合絵(Sop)さん、黒田祐貴(Br)さん

昨年の佐渡裕プロデュースオペラ『メリー・ウィドウ』で絶大な人気を博したハンナとダニロが、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールに登場する。モデル並みのビジュアルとスタイルに加え、抜群の歌唱力で聴く者・観る者を魅了する高野百合絵と黒田祐貴の二人は、単独での意欲的な活動に加え、デュオの活動も積極的に続けている。12月に行われるザ・フェニックスホールの人気シリーズ、ティータイムコンサートでは、レナード・バーンスタイン晩年の秘曲『アリアと舟歌』の関西初演に加え、二人が今いちばん歌いたいバラエティに富んだプログラムを披露してくれる。人気と実力を併せ持ち、将来のオペラ界を背負って立つであろう二人に、お互いの印象や、『アリアと舟歌』に纏わるエピソード、ティータイムコンサートの聴き所などを聞いた。

(取材・文:磯島浩彰/音楽ライター)



©Takafumi Ueno



©Masatoshi Yamashiro

高野百合絵(たかの・ゆりえ/ソプラノ)

東京音楽大学、及び大学院を首席で修了。NISSAY OPERA2018『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラを在学中にオーディションで射止め、華のある存在感で注目され、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2021『メリー・ウィドウ』では主役ハンナ・グラヴァリを見事に演じ、華麗な舞台姿と確かな歌唱力で喝采を浴びた。読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団などの主要オーケストラと共演。2020年デビューアルバム「CANTARES」をリリース(日本コロムビア)。

黒田祐貴(くろだ・ゆうき/バリトン)

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。伊・キジアーナ音楽院でディプロマ取得。第87回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞(聴衆賞)受賞。2021年デビューアルバム「Meine Lieder」リリース(日本コロムビア)。同年7月佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ『メリー・ウィドウ』ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵でオペラ・オペレッタデビュー。2022年3月アントネッロ主催オペラ『ジュリオ・チェーザレ』アキッラ、6月NISSAY OPERA『セビリアの理髪師』フィガロで出演し、表現豊かな演唱で観客を魅了した。

バーンスタイン晩年の秘曲「アリアと舟歌」、 待望の関西初演

お二人のデュオの活動は、昨年の『メリー・ウィドウ』（2021.7 兵庫県立芸術文化センター）が評判になったことから誕生したものだと思っていたのですが、違ったんですね。

黒田 高野さんも私も、日本コロムビアの「Opus One」というレーベルからCDをリリースしています。高野さんは私より1年ほど前にリリースされているのですが、二人共CD発売記念リサイタルがコロナの影響で開催出来なかったため、二人で一緒にやる事になったのです。

高野 それが『メリー・ウィドウ』終わりの昨年9月、東京の王子ホールでのリサイタルです。最初の顔合わせでプログラムを決めている時には、まだ『メリー・ウィドウ』に出演する話は決まっていなかった。その後、私がハンナ・グラヴァリ役に決まったという知らせを受けて喜んでいて、相手役が黒田さんだと知り、びっくりしました。

黒田 めちゃくちゃ驚きました。高野さんは何事にも貪欲で、探求心がすごい。常にどうしたら良くなるかを考えている尊敬できる音楽家です。

高野 2019年に初めて黒田さんの舞台姿を拝見した時から、素敵な歌声と輝くオーラ、そしてユーモアを持ち合わせた本物の舞台人だと思いました。歳は一つ違いという事ですが、色々な引出しをお持ちで、大変勉強させてもらっています。

『メリー・ウィドウ』は大盛況で、お二人のハンナとダニロも評判を呼びました。それを受けて、今年1月には兵庫県立芸術文化センター大ホールでデュオリサイタルが行われましたが、ハンナとダニロの凱旋公演といった内容でした。

黒田 名曲をこれでもか!と並べたプログラムでしたね。今回のコンサートでは、また違った面をお見せしたいと思っています。

王子ホールで演奏されて話題となったレナード・バーンスタインの『アリアと舟歌』を、今回も選曲されました。この曲を最初に取り上げられたのはどういう経緯だったのでしょうか。

高野 私は珍しい曲を探し出すのが好きで、『アリアと舟歌』はいつか歌いたいと大切に温めていた曲。黒田さんなら一緒に歌ってくださるのではないかと思います。提案したところ、「やってみよう!」と即答してくださいました。

黒田 全く知らない曲でした。その場でちょっとだけ音源を聴いてペラペラと楽譜をめくって、面白そう、やってみよう!と(笑)。正式な記録は分かりませ

んが、ネットで調べても日本での演奏記録は無く、僕たちが初演するのも素敵だなと思ったのです。

女声と男声、ピアノ伴奏が二人というユニークな構成の曲ですね。

高野 アメリカの家庭がテーマとなった、全部で8曲の連作歌曲集です。二人で歌う曲とソロの曲が交互に出てきます。第2曲の歌詞に、この曲自体を歌った、「このメロディ、不思議だわ。ミニマルミュージック、クラシック、それともポピュラーソング?」「どれも不正解」というくだりが出て来ますが、まさにジャンルを特定できないミステリアスな曲です。

黒田 歌詞は英語ですが、第6曲だけがイディッシュ語で書かれています。バーンスタインが敢えて、イディッシュ語の詩をテキストに選んだのは、彼の父さんがウクライナ系ユダヤ人だったことと関係があると言われています。この曲を歌うために、イディッシュ語の先生に就いて発音の勉強をしました。王子ホールでは、歌詞対訳を事前に配ったのですが、今回、よりダイレクトに作品の世界観を味わって頂くために、字幕が出せないかお願いをしています。

コンサートの内容を教えてください。

高野 前半はコルンゴルトとクルト・ヴァイルの作品を歌います。共に同じ時代に活躍し、主に映画やミュージカルの世界で成功を取っている作曲家です。コルンゴルトの歌劇『死の都』は日本でも上演される人気オペラなので、存知の方も多いのではないのでしょうか。クルト・ヴァイルは昨年歌って完全にハマりました。『ヴィーナスの接吻』はミュージカル作品ですが大好きな曲です。そしてこれも大好きな曲、平井康三郎『うめぼれ鏡』を初披露します。

黒田 高野さんがコルンゴルトを選曲されたので、同じ『死の都』からCDにも入れた“ピエロの歌”ともう1曲をまず決めました。そして大好きなマーラーの『若き日の歌』から2曲。彼女と同様に私も邦人作品の中から、『さっちゃん』の作詞、作曲のお二人、大中恩、阪田寛夫の作品から『ところがトッコちゃん』という曲を歌います。作詞の阪田寛夫さんは大阪出身で、宝塚歌劇団の元花組トップスター大浦みずきさんのお父様です。

前半の最後に、バーンスタインの『ウエスト・サイド・ストーリー』が選曲されています。

高野 同じバーンスタインでも『ウエスト・サイド・ストーリー』(1957年作)は若い二人の物語に対して、『アリアと舟歌』(1988年作)は結婚して子供が

生まれた家族の物語です。作曲時期の違いでこれだけ作風が違うという所を聴いて頂こうと思い、選びました。

会場となる大阪のザ・フェニックスホールはご存知ですか。

黒田 大阪は母親の出身地ですし、阪神タイガースファンには特別な場所です(笑)。ザ・フェニックスホールは、福井敬さんのリサイタルに父親(バリトン黒田博)がゲストで出演した時に何度か伺っています。お客様に囲まれた独特の空間で、音響がとても良かった印象があります。

高野 大阪で歌うのは初めてなので、とても楽しみです。ネットでステージ後ろの壁が上がり、外景が見えることを知りました。14時からのリサイタルなので、夜景は無理だと思いますが、上手く演出として活用できないか色々考えています。

最後にメッセージをお願いします。

高野 ジャンルやカテゴリにこだわらず、チャレンジすることが好きです。職業はと聞かれれば、高野百合絵です!と答えられるような、唯一無二の存在になれるよう、今はしっかり勉強中です(笑)。どうか私たちのリサイタルにお越しください。

黒田 私も自分の職業は、声楽家というより芸術家と言えるようになっていきたいと思っています。この後も、リサイタルや佐渡さん指揮の新日本フィル『第九』など、二人で出演する機会はありますが、ソロでもデュオでも、皆さまの期待にお応えできるように努力して参ります。ぜひザ・フェニックスホールにお越しください。お待ちしております。

ティータムコンサートシリーズ159

高野百合絵(Sop) & 黒田祐貴(Br)
デュオリサイタル

2022年12月2日(金) 14:00開演 *お菓子付き
一般3,500円 友の会会員3,150円
学生(25歳以下)1,000円(限定数)

■出演

高野百合絵(ソプラノ)、黒田祐貴(バリトン)
石野真穂、追川礼章(以上ピアノ)

■曲目

ルンゴルト: 歌劇『死の都』より
「私に残された幸せは(マリエッタの歌)」
「私の憧れ、私の空想(ピエロの歌)」
バーンスタイン: ミュージカル
『ウエスト・サイド・ストーリー』より
「Tonight」「Feel Pretty」
バーンスタイン: アリアと舟歌 ほか

■チケットのお求め・お問い合わせ

ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999(平日10:00~17:00 土日祝休)



ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

9月16日(金)
10:00 受付開始

イー・フェニックス
E-PHX優先予約

9月20日(火)
10:00 受付開始

一般発売
9月21日(水)
10:00

インターネット予約による
お申込みは9月22日(木)10:00から!

■レクチャーコンサートシリーズ32

2023年
2月23日(木・祝)

15:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会会員¥3,150)
学生(25歳以下)¥1,000

彼はなぜ悪魔と呼ばれたのか?その真相は…

パガニーニ

ヨーロッパを熱狂させた悪魔のヴァイオリニスト

出演 渡辺玲子(ヴァイオリン)、江口玲(ピアノ)、浦久俊彦(ナビゲーター)

曲目 パガニーニ:無伴奏カプリス op.1より 第24番
パガニーニ:ヴァイオリン協奏曲 第4番より 第2楽章
リスト:ラ・カンパネラ ほか

ウィーン、ベルリン、パリ、ロンドン。「人を酔わせる技巧と引き替えに悪魔に魂を売った」とまで噂された伝説のヴァイオリニスト・パガニーニ。彼の出現はまさにスキャンダルでした。ヨーロッパ中が、悪魔と呼ばれたこのひとりのヴァイオリニストに圧倒され、熱狂し、魅了されたのです。「パガニーニ・ショック」ともいうべき、この社会現象は何だったのか?超絶技巧と演出を駆使した革新的な舞台とは?日本語で書かれた唯一の伝記『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト〜パガニーニ伝(新潮社)』の著者ならではの構成&トークと、日本が世界に誇るパガニーニのスペシャリスト 渡辺玲子&名手 江口玲の妙技とともに、19世紀の伝説の舞台が、いま、あざやかに蘇ります。



ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

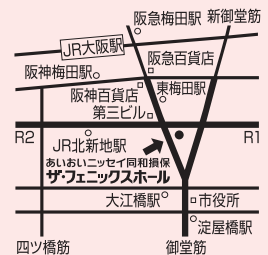
<https://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をさせていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



このたび、あいおいニッセイ同和損保が・フェニックスホールの公式Twitterアカウントを開設しました。ホール主催公演の情報を中心に、ホールのさまざまな取り組みやホールを身近に感じていただける情報を発信してまいります。Twitterアカウントをお持ちの方は、ぜひフォローや投稿のシェアをお願いいたします。Twitterアカウントをお持ちでない方も右記URLリンクよりご覧いただけます。



■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ96

主催 Trio Quffo 事務局

2023年
1月14日(土)

14:00開演 自由席
一般前売¥2,500(友の会会員¥2,250)
一般当日¥3,000(友の会会員¥2,700)
学生前売¥1,500 学生当日¥2,000
※学生券は大学生以下対象。

馴染みのない編成、だからこそ面白い。
トリオ・クッフォが贈る3つの楽器の交錯と調和。

*2021年5月22日(土)の振替公演

Trio Quffo リサイタル

～ヴァイオリン、クラリネット、ピアノが織り成す魅惑の三重奏～



出演 谷崎大起(ヴァイオリン)、千葉友希(クラリネット)、田母神夕南(ピアノ)

曲目 バウスネルン:ヴァイオリン、クラリネットとピアノのためのセレナーデ
ハチャトゥリアン:クラリネット、ヴァイオリンとピアノのための三重奏曲
ミヨー:クラリネット、ヴァイオリンとピアノのための組曲 op.157b
アイヴズ:ヴァイオリン、クラリネットとピアノのためのラルゴ
シェーンフィールド:クラリネット、ヴァイオリンとピアノのための三重奏曲

ヴァイオリン、クラリネット、ピアノという三重奏は、いったいどんな特徴をもつ編成なのでしょう?クラシック音楽の枠組みとしては比較的歴史が浅く、19世紀後半から作曲されるようになり、20世紀になるとミヨー、ハチャトゥリアンなどが名曲を残しました。その一方で、ユダヤ系の民謡をルーツにもつ『クレズマー音楽』では、ヴァイオリンとクラリネットというのは伝統的な組み合わせでした。今回はこの編成のために作られた曲に限定し、ロマンティックな曲想でドイツロマン派を感じさせるW.E.バウスネルンや、クレズマー音楽やジャズの要素をふんだんに取り入れたP.シェーンフィールドなど、個性豊かな5曲をお届けします。この編成ならではの3つの楽器がソリストティックにぶつかり交錯していく様子、混ざり合い美しい調和が聴こえる展開など、作曲家がこの編成に託したそれぞれの世界観をお楽しみください。

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ103

主催 SHピアノジャンクション

2023年
2月7日(火)

19:00開演 自由席
一般前売・当日¥3,000(友の会会員¥2,700)
学生前売・当日¥1,500

「ピアノソナタ」という形式の駆使、拡張、解体を試みた
それぞれの作曲家の挑戦を一夜にして弾ききる!

法貴彩子 ピアノ・ジャンクション Vol.3

～「ソナタ」の魅力と呪縛～



©MIKA INOUE

出演 法貴彩子(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第17番 二短調「テンペスト」op.31-2
リスト:ピアノソナタ 口短調 S.178
ブーレーズ:ピアノソナタ 第2番

ひとくりに「ピアノソナタ」といっても時代や作曲家によってそのとらえ方は多種多様である。ベートーヴェン《ピアノソナタ第17番「テンペスト」》は構成する3楽章全てで「ソナタ形式」が採られており、各楽章ともその形式の中で実験的なアイデアを繰り返している。リストの《ピアノソナタ 口短調》は幻想曲の趣がある単一楽章作品だが、主要主題の変容によって有機的に統合された多楽章形式のソナタとしてもみなせる特異な構造を持つ。については「ピアノソナタ」の可能性をより広げるに至った。ブーレーズは20世紀後半を代表するフランスの作曲家である。《ピアノソナタ第2番》は12音技法を用い、複雑なリズムとともに高い技巧が要求される難曲であり、古典的な「ピアノソナタ」の破壊を試みた作品である。その形式的な側面はありながらも、それらの軀から逃れようとしているのが感じられる。明晰なピアノリズムをもつ法貴彩子による意欲的なプログラムを是非ともお楽しみいただきたい。

2023年度フェニックス・エヴォリューション・シリーズ審査結果のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保が、フェニックスホールは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が芸術文化支援活動の拠点として設置、運営している音楽ホールです。優れたアーティストによる自主企画公演を開催する一方で、発表の機会を探っておられるアーティストの方々に呼び掛け、個性溢れる公演にこのホールを活用いただくことも重要な事業と位置付けています。「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ」は、プロ・アマを問わず、音楽を愛するみなさまから公演の企画を募り、審査を経て選ばれた方々にホールと付帯施設を無料で提供しています。2023年5月から2024年2月までの4公演の枠に、国内外から28編のご応募をいただきました。去る7月16日に選考検討会を開催し、識者の方々のご意見を伺ったあと、さらにホールで選考を進めた結果、4編の企画を入選いたしました。

■ 本年の選考アドバイザー（五十音順）

大田美佐子様（神戸大学大学院准教授）、小室敬幸様（音楽ライター）、白水大介様（関西フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者）、三原剛様（声楽家・大阪芸術大学教授）



2023年5月30日(火)

西岡沙樹 ピアノリサイタル ーフォーレ、移ろう色彩

■ 出演 西岡沙樹(ピアノ)

■ 曲目 フォーレ：即興曲 第1番 変木長調 op.25、ノクターン第13番 口短調 op.119 ほか



2023年8月1日(火)

杉田恵理・東条慧 ヴィオラリサイタル

■ 出演 杉田恵理、東条慧(以上ヴィオラ)

■ 曲目 バルトーク：44の2台のヴァイオリンのためのデュオより(ヴィオラデュオ版)、ジョージ・ベンジャミン：ヴィオラ・ヴィオラ ほか



2023年11月7日(火)

会所幹也 リュートリサイタル

■ 出演 会所幹也(リュート)

■ 曲目 ダウランド：ファンタジー、ジョアン・アンブロジーオ・ダルツァ：Pavana alla Venetiana, Saltarello, Piva ほか



2024年2月6日(火)

La Toile Blanche 箏曲演奏会 ー現代邦楽、サイセイー

■ 出演 宮井友梨香(箏、十七弦)、山下菜央(箏)、中野加奈子(箏)、赤木愛理(箏、十七弦) 助演：小林鈴純(尺八) 特別出演：宇野文夫(解説)

■ 曲目 沢井忠夫：三つのパラフレーズ、宇野文夫：新曲 ほか

Salon

アート・イン・フェニックス

ポール・ギアマン作「レッスン」

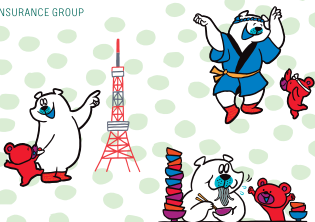
ホール4F壁画

色の魔術師ギアマンが特に斬新な色彩のテクニックを用いて描いた一枚です。色の特性を巧みに操り、赤は指導する情熱を、青は音楽に対する真摯な姿勢を、緑は全体の調和を意味付けています。レッスンの張りつめた緊張感とヴァイオリンの音色を見事なまでに色で表現した作品です。

ギアマンは1965年の「国際形象展」に招待出品し、初めて日本に紹介されました。以降、2005年まで幾度となく来日し個展を開催。1994年、時のフランス大統領、ミッテラン氏の来日の折、美智子妃殿下(現上皇后)にギアマンの作品が献上された事で、日本でも広く知られることとなりました。2007年12月に81歳の生涯を閉じるまで世界中で愛され、今もなお、フランス現代絵画の巨匠として不動の地位を確立しています。



あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP



地域の皆さまとともに。

弊社は、地域密着を行動指針の一つとする企業経営を行っており、弊社およびグループ企業にて培ったノウハウを活かし、地方創生における「まち・ひと・しごと」の各分野において地域社会、地域企業のお役に立ちに向けた支援を行っております。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1

<https://www.aioinissaydowa.co.jp/>

あいおいニッセイ同和損保が・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
The 25th Anniversary Concert by Kojima Concert Management ～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～
ミハル・カニユカ ピアノトリオ・プロジェクト 主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2022年12月9日(金) 19:00開演 指定席
前売・当日¥6,000(友の会会員¥5,400) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 伊藤恵(ピアノ)、漆原朝子(ヴァイオリン)、ミハル・カニユカ(チェロ) プラハの春国際音楽コンクール会長、プラハの春国際音楽祭芸術委員等の要職にある、チェコが誇る名チェリスト、ミハル・カニユカが東京芸術大学教授でもある日本を代表する2人の国際的な名手たちと展開するピアノトリオの世界をどうぞ堪能下さい。

曲目 ハイドン:ピアノ三重奏曲 ト長調「ジブシートリオ」Hob.XV-25
ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調「大公」op.97
ドヴォルザーク:ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調「ドゥムキ」op.90



©武藤章

©Nagaya Yamaguchi Studio

協賛公演 **アフター・アワーズ・セッション 25周年記念演奏会** 主催 アフター・アワーズ・セッション

10/12(水) 発売

2022年12月12日(月) 19:00開演 自由席
一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 日比浩一、ギオルギ・ババアゼ(以上ヴァイオリン)、三木香奈(ヴィオラ)、日野俊介、池村佳子(以上チェロ)、植田恵子(フルート)、大島弥州夫(オーボエ)、松原央樹(クラリネット)、世古宗優(ホルン)、首藤元(ファゴット)、右近恭子(ピアノ)

曲目 秋透:妖精の星によるささやかな計略 (ヴァイオリン、木管五重奏、ピアノのための)【委嘱作品】
ドヴォルザーク:セレナード 二短調 op.44 九重奏版(予定) ほか

これまで結成15年、20年と節目ごとにザ・フェニックスホールで公演しています。5年前に引き続き、この度も委嘱の新作を初演することになりました。アフター・アワーズ・セッションならではの、珍しい編成(ヴァイオリン、木管五重奏、ピアノ)による七重奏です。またメインもあまり演奏されることのない大きな編成の室内楽をお届けする予定です。



協賛公演 **祝祭の夜 サティとフランス六人組** 主催 鈴木由美「ラ・プレイヤー」

発売中

2022年12月15日(木) 19:00開演 自由席
一般前売¥5,000(友の会会員¥4,500) 一般当日¥5,500(友の会会員¥4,950) 学生前売・当日¥3,000

出演 奈良ゆみ(ソプラノ)、寺嶋陸也(ピアノ)、八木清市(演出・朗読)

曲目 サティ:愛をこめて(作詞 V.イスバ)
プーランク:最後の時(作詞 R.デスノス)
ミヨー:子守唄(ヘブライ民謡)
オーリック:ムーラン・ルージュ(作詞 J.ラ リュ)
オネゲル:決まり文句(作詞 J.コクトー)
タイユフェール:猫かぶり(作詞 R.パンジェ) ほか

世界大戦が終わったバリの1920年代は「狂乱の時代」と呼ばれ、ダンス、演劇、ファッション、絵画、彫刻、映画…すべてが爆発した。エリック・サティに影響を受けた若い6人の音楽家たちは新時代の興奮のなかに歓喜の声をあげて飛び込み、次々とエスプリにあふれた作品を生み出していく。このコンサート=スペクタクルは遊戯性に満ち、笑いに溢れ生き生きとしたこの祝祭の日々を再現しようとする。



協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”
The 25th Anniversary Series by Kojima Concert Management ～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～

発売中

関西弦楽四重奏団～セザール・フランク生誕200周年記念公演～ 共演:阿部裕之(ピアノ) 主催 コジマ・コンサートマネジメント

2022年12月20日(火) 19:00開演 指定席
前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,900) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 関西弦楽四重奏団/林七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)、上森祥平(チェロ) 阿部裕之(ピアノ)

曲目 J.S.バッハ:フーガの技法 BWV1080より(弦楽四重奏による)
フランク:弦楽四重奏曲 二長調、ピアノ五重奏曲 へ短調

1822年ベルギーに生まれ、パリ音楽院にて学び、「フランス近代音楽の父」と称されたセザール・フランクの生誕200周年を記念し当ホールでお馴染みの関西弦楽四重奏団がフランス音楽の名手、阿部裕之(ピアノ)と共に奏でます。フランクの名曲をどうぞお聴きください。



協賛公演 **長原幸太&田村響 デュオ・リサイタル** 主催 長原幸太&田村響 デュオ・リサイタル 実行委員会

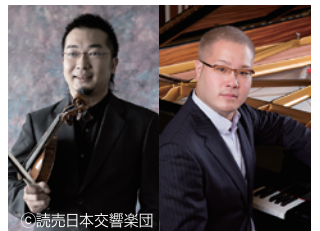
発売中

2022年12月21日(水) 19:00開演 自由席
一般前売・当日¥4,500(友の会会員¥4,050) ※友の会割引はお1人2枚まで。 学生前売・当日¥2,000

出演 長原幸太(ヴァイオリン)、田村響(ピアノ)

曲目 モーツァルト:ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第21番 ホ短調 K.304
メンデルスゾーン:ヴァイオリンソナタ へ長調 Q26(初版)
パガニーニ(アウアー編):24の奇想曲 op.1より 第24番 イ短調
サン=サーンス:ヴァイオリンソナタ 第1番 二短調 op.75

ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ・プレイヤーとしても多彩な活躍をみせる長原幸太が、盟友・田村響を迎え、約10年振りに自主企画のリサイタルを開催!モーツァルトやメンデルスゾーンも独自の視点で選曲し、超絶技巧で知られるパガニーニの〈24の奇想曲〉より第24番もピアノ伴奏付きの編曲でお聴きいただくなど、趣向を凝らした内容となっています。メインのサン=サーンスのソナタはヴァイオリンだけでなく、ピアノにも注目して聴いていただきたい作品です。



©読売日本交響楽団

仙台クラシックフェスティバルでライブの響きを感じよう



東北地方にある宮城県仙台市では、毎年初夏から秋にかけて、多彩な音楽祭が開催される。

例えば、6月には障害のある人もない人も楽しめる「とっておきの音楽祭」、9月上旬には「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、11月には「仙台ゴスペル・フェスティバル」。いずれも中心市街地にある広場や施設を活用した複数のステージが設けられ、街に音楽が溢れだす。

今回ご紹介する「仙台クラシックフェスティバル」もまた、仙台の街を音楽で盛り上げるお祭りのひとつ。「せんくら」の愛称で親しまれ、仙台の秋の風物詩として定着している。仙台市地下鉄沿線の複数のホールを会場に、クラシック音楽を中心としたコンサートを同時多発的に開催する。

せんくらの誕生は、2006年10月にさかのぼる。第1回でプロデューサーを務めた平井洋氏は、立ち上げ当時のコンセプトノートに「クラシック好きでもクラシック嫌いでも無い、ごく普通の方々のために企画された音楽祭」と記している。またその実現のために、芸術性と間口の広さの折り合いをつけたプログラムづくりを含む、様々な工夫を提案された。16年間の年月をかけて、少しずつリニューアルを重ねてはいるが、変わらずに継続していることもある。例えば…



- ・どこかで聴いたことのある親しみやすい曲が中心
- ・1コンサートは短く(45分もしくは60分)
- ・チケットはお買い求めしやすい価格で販売
- ・朝から晩まで多種多様なプログラムがよりどりみどりで、都合の良い日時に立ち寄れる
- ・小さなお子さまも入場可能。家族一緒に楽しめる

など、クラシック音楽の演奏会が初めての方、敷居が高く敬遠される方も楽しめるようになっている。

出演するアーティストはそんなお客様をお迎えるための音楽祭のいわば「支え手」。仙台国際音楽コンクールから世界へ羽ばたいたヴァイオリニスト、ピアニストをはじめ、国内外で活躍する若手からベテランが集結し、充実のプログラムとともにお迎える。仙台の音楽シーンを根強く支える在仙音楽家、仙台フィルハーモニー管弦楽団、市内大学の音楽専攻で学ぶ学生の出演など、仙台の音楽的財産を最大限に活かし、音楽祭を盛り上げる。



支え手は出演者だけではない。記録写真撮影、一部会場の表方運営は市民ボランティアによるもの。また、高校放送部による場内アナウンス、ホールを彩る装花など、たくさんの市民によって運営が成り立っている。

今年で16回目を迎えるせんくらのテーマは「やっぱり、ライブがいいね!」。新型コロナにより一時は演奏会の実施が厳しく制限されることもあったが、だからこそ、ホールに足を運んでライブで聴くからこそその響きと感動を思い出してほしい/味わってほしいという想いをこめた。

今年も開催時期は仙台の実りの秋。真夏の蒸し暑さが落ち着き、秋風から涼しさが感じられるようになる季節。過ごしやすいこの季節に、ぜひ仙台を訪れてほしい。

(公益財団法人 仙台市市民文化事業団 富田小緒里)

■公演情報

仙台クラシックフェスティバル2022

日程:9月30日(金)~10月2日(日) 会場:日立システムズホール仙台、太白区文化センター

主催:仙台市、仙台市市民文化事業団 ほか

前売券:一般 1,300円~2,500円 U-18 700円~1,500円 詳しくは公式サイト(<https://sencla.com>)をご覧ください。

